

自分らしい
“明日”を描こう

色とりどりに輝く大田区の仕事人

お仕事レポート **vol. 5**

「取りあげ以外のことをする助産師」として、 女性の一生に寄り添っていききたいです。

会社について教えてください。



株式会社とらうべ
代表取締役社長
なんぶ ようこ
南部 洋子さん
Yoko Nambu

Profile

東京医科歯科大学付属病院にて約300人の赤ちゃんを取りあげる。昭和63年に「とらうべ」設立。社員は全て女性で、助産師、看護師、保健師、管理栄養士といったスペシャリストが、女性の一生に寄り添った様々な事業を展開。平成21年度東京ワークライフバランス認定企業。

ワーク・ライフ・バランスについて、どうお考えですか？

今後の目標は何ですか？

私は元々、大病院の産婦人科で助産師をしていました。そのとき、妊娠や出産を経験する女性にとって、自分の身体を理解することはとても大切なのに、不幸にも多くの女性は自分の身体ときちんと向き合えていないと感じました。医療機関を離れた後は、外資系企業で育児相談にのつてきましたが、シニア世代も含めた多くの女性から相談が寄せられました。

こうした経緯があつて設立した「とらうべ」では、専門知識と経験を備えた社員を率いて、女性のカラダ相談、妊娠・出産・育児サポートや介護相談などを行っています。電話相談や産後ケアといった取組みは口コミで広がり、現在は企業の健康管理、メディカルマーケティング支援、ヘルスケアコンテンツ提供などの事業も展開しています。

「とらうべ」は子育て中の社員が多く、一人ひとりの状況に合わせて出勤時間などを調整しています。仕事と育児を両立させるためには、会社側が個人の事情を理解することと、社員が自らビジネスマナーを考え、実行していくことが大切です。

例えば、子どもの保育園で水疱瘡ほうそうなどが流行していたとしたら、わが子もかかった場合に備えて仕事の段取りをつけておく。いざお休みとなったときも、業務が円滑に遂行されるように情報共有をし、会社に状況報告をしておく。家庭で状況を把握できるように話し合い、夫も協力する。可能ならば両親にも協力を頼み、助けてもらったからお礼を忘れずにする。こうした報告・連絡・相談や工夫は、ワーク・ライフ・バランスを本当の意味で実現するためのルールだと思います。

「取りあげ以外のことをする助産師」として、女性の一生に寄り添った活動をしていきたいです。女性の多くはまだまだ自分の身体を理解していないのが現状です。例えば、出産は女性の身体に多大な負担をかけますから、本来は産後三週間は安静にして、徐々に日常生活に身体を慣らしていく必要があります。でも、産後一週間たらずで外出している女性もいるし、周囲もそれが良くないことだとわかっていない。妊娠・産後に身体を大切にしないと、その影響はシニア期にでてきます。なるべく若い世代から、女性の身体に関する教育をしていきたいですね。今後は、地域への貢献を通じて自分たちの取組みを広げていきたいと思っています。

「とらうべ」は子育て中の社員が多く、一人ひとりの状況に合わせて出勤時間などを調整しています。仕事と育児を両立させるためには、会社側が個人の事情を理解することと、社員が自らビジネスマナーを考え、実行していくことが大切です。

例えば、子どもの保育園で水疱瘡ほうそうなどが流行していたとしたら、わが子もかかった場合に備えて仕事の段取りをつけておく。いざお休みとなったときも、業務が円滑に遂行されるように情報共有をし、会社に状況報告をしておく。家庭で状況を把握できるように話し合い、夫も協力する。可能ならば両親にも協力を頼み、助けてもらったからお礼を忘れずにする。こうした報告・連絡・相談や工夫は、ワーク・ライフ・バランスを本当の意味で実現するためのルールだと思います。

